

らじみさらダボール子育て情報

「主体性と自信」

令和3年9月8日号

板橋富士見幼稚園



子どもとのコミュニケーションを大切に

この世に生を受けた子どもは、人間としてすべての権利が保証されます。新しい命が宿り、誕生してきた子どもは、家族にとってかけがえのない宝です。その宝に知能や社会の適応性を授けるのは、親の責任であり、その育ては代えがたい幸せとなります。



子どもが望む望まないに関わらず、親は自分たちの実現できなかった事を望み続け、我が子に託すことが多いと聞きます。

どんな親も、子どもの人格が形成されていく中で、どの道を歩ませるか悩みながら、将来自分たちの能力を超える力を持ち成長して欲しいと願っています。

時にそのような親の思いから親子のコミュニケーションが一方的になってしまうこともあるかと思えます。

大人が自分の生き立ちの中で育ち持った言葉の遣いを変えたり、自分の価値観を変えたりすることは、とても難しいことですが、子どもと語り合うときに少しでも大切にしてほしい事があります。それは子どもの「語り」を理解しようとするということです。実は、口から発声されるような音声言語は、「語り」の中で30%足らずの割合になります。残りの70%は、表情や動きを含む身体的表現なのです。「ねえ、ママ」と呼びかける一言にも、たくさんの意味が潜んでいます。ただ呼びかけてみたかったと思う気持ちや、欲求であったり、自分の心配に気付いてほしいサインだったりその時々で違います。

したがって子どもからの語りかけや子どもとの語り合いでは、この身体的表現にもしっかりと五感を寄せて丁寧に理解するよう心がけてみてください。それは、一人の人格を保障する語りの受け止めとなることでしょう。

そしてもう一つ、命令や指示は極力避けるようにしましょう。たどたどしくても、子どもの思いに心を寄せて、「どうして」「何で」「そうなのね」とゆっくりと語り合うようにしていくことで、自分の思いが伝わり、認められる自己肯定感を育てることができます。そのようにコミュニケーションを心がけてみると、きっと素晴らしい子どもに育ちます。